

# 大豆新品種「リュウホウ」の特性

湯本 節三・高橋 浩司・中村 茂樹

(東北農業試験場)

Agronomic Performances of New Soybean Variety "Ryuho"

Setsuzo YUMOTO, Koji TAKAHASHI and Shigeki NAKAMURA

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

## 1 はじめに

近年、大豆の栽培面積は大きく減少しているが、今後の作付拡大を図るには省力化並びに多収良質化が必須である。「リュウホウ」はこれらの要求にかなう品種であり、1995年に農林水産省の新品種に登録されるとともに、秋田県で奨励品種に採用され、今後の普及が期待される。そこで本品種の特性概要を報告する。

## 2 育成経過

1983年にダイズシストセンチュウ及びダイズモザイク病に抵抗性で白目大粒の良質多収を育種目標として、良質多収品種の「スズユタカ」を母、大粒で成熟期が中生の早の「刈交343F<sub>6</sub>」を父として人工交配を行い、以後、F<sub>2</sub>及びF<sub>3</sub>を集団選抜、F<sub>4</sub>以降を系統選抜で進めた。1991年に「刈系445号」の系統名で生産力検定予備試験及び系統適応性検定試験に供試し、1992年から「東北113号」の地方番号を付して生産力検定試験及び奨励品種決定調査に供試するとともに、病虫害抵抗性や加工適性等の各種特性検定試験に供試した。

## 3 特性

育成地での生産力検定試験及び特性検定試験等の結果に基づき、新品種の特性を列記すると以下のとおりである。

(1) 成熟期は10月8日で、「ライデン」及び「トモユタカ」並の中生の早である。

(2) 主茎長、主茎節数及び分枝数は68cm、15.1節及び4.4本で、これらはいずれも「ライデン」より小さく、それぞれ中に分類される。

(3) a当たり収量は28.1kgで「ライデン」や「トモユタカ」並であり、「スズカリ」の29.2kgに及ばないものの、成熟期が「スズカリ」より9日早いことを考慮すると、収量性に優れると言える。

(4) 子実の種皮色は黄白、臍色は黄で、形は「ライデン」と同様に楕円体である。

(5) 百粒重は29.7gで、「ライデン」の23.7gより明らかに大きく、「スズカリ」の26.6gより優り、粒大は中の大に属する。なお、百粒重に関して「リュウホウ」より優る既存品種は「ミヤギシロメ」のみであった。

(6) 外観品質は2.7で最も良好であり、「ライデン」よりは明らかに優った。

(7) 耐倒伏性は「トモユタカ」並で、「タチユタカ」よりやや劣るものの「ライデン」より強く、裂莢性も「ライデン」よりやや優れ、最下着莢位置も高く、コンバイン収穫に適する。

(8) ダイズシストセンチュウ抵抗性は強、ダイズモザイク病抵抗性は中である。また紫斑病及び立枯性病害に対する抵抗性はそれぞれ中である。

(9) 子実中の粗蛋白と粗脂肪含有率は42.7%と20.3%であり、それぞれ中に分類される。

(10) 主な用途である豆腐に関する加工適性は「ライデン」並に良好であり、また粒が大きく煮豆用にも利用できる。

表1 育成地における生育、収穫物及び品質調査成績<sup>1)</sup>

| 品 種 名  | 成熟期 <sup>2)</sup><br>(月日) | 主茎長<br>(cm) | 主茎節数 | 分枝数 | 倒伏程度 <sup>3)</sup> | 子実重<br>(kg/a) | 百粒重<br>(g) | 障害粒の程度 <sup>3)</sup> |     |     | 品質 <sup>4)</sup> |
|--------|---------------------------|-------------|------|-----|--------------------|---------------|------------|----------------------|-----|-----|------------------|
|        |                           |             |      |     |                    |               |            | 紫斑                   | 褐斑  | 裂皮  |                  |
| リュウホウ  | 10. 8                     | 68          | 15.1 | 4.4 | 2.5                | 28.1          | 29.7       | 0.8                  | 0.0 | 0.0 | 2.7              |
| ライデン   | 10. 8                     | 84          | 16.5 | 5.5 | 3.8                | 27.9          | 23.7       | 1.5                  | 0.5 | 0.8 | 3.7              |
| トモユタカ  | 10.10                     | 75          | 15.6 | 4.7 | 2.2                | 27.8          | 23.5       | 1.3                  | 0.0 | 1.0 | 3.0              |
| スズカリ   | 10.17                     | 82          | 16.3 | 4.9 | 2.2                | 29.2          | 26.6       | 1.2                  | 0.0 | 0.5 | 3.2              |
| スズユタカ  | 10.20                     | 81          | 17.1 | 4.2 | 2.8                | 26.0          | 23.2       | 1.2                  | 0.0 | 0.3 | 3.2              |
| タチユタカ  | —                         | 80          | 17.1 | 3.1 | 1.7                | 26.3          | 23.8       | 1.0                  | 0.2 | 0.3 | 3.3              |
| ミヤギシロメ | —                         | 104         | 19.1 | 3.3 | 3.3                | 24.5          | 33.9       | 0.2                  | 0.3 | 0.0 | 2.8              |

注. 1) 1992～1994年の普通畑と転換畑での生産力検定試験の平均である。

2) 成熟期の「—」は一部年次で成熟期に達しなかったことによる。

3) 倒伏程度と障害粒の程度は無(0)～中(3)～甚(5)の評価による。

4) 品質は上上(1)～中上(4)～下(7)の評価による。

表 2 機械化適性に関わる調査成績

| 品種名   | 倒 伏 程 度 |     |    | 最 下 <sup>1)</sup> 成熟後の <sup>2)</sup><br>着莢位置 裂莢程度<br>(cm) |   |
|-------|---------|-----|----|-----------------------------------------------------------|---|
|       | 普通畑     | 転換畑 | 晩播 |                                                           |   |
| リュウホウ | 少       | 中   | 微  | 19.5                                                      | 微 |
| ライデン  | 多       | 多   | 少  | 18.4                                                      | 少 |

注. 1) 子葉節より最下着莢節位までの高さ。

2) 収穫適期後約 1 ヶ月間圃場に立毛のまま放置したときの裂莢性程度で、無 (0%), 微 (1~5%), 少 (6~10%), 中 (11~20%), 多 (21%~) の評価による。

## 4 適地と栽培上の注意

適地は東北北部及び中部地域で、秋田県で奨励品種に採用され「ライデン」及び一部「スズユタカ」に置き換え普及奨励する。

栽培上の注意事項として、ウイルス病多発地ではアブラムシの防除に努め、適正な輪作のもとで栽培することが上げられる。